

『ソク・サバーイ！ カンボジア・サッカー見聞録～牛の向
こうに未来が見える～』 Vol. 5

● J F A サッカー 1 級 審判 インスストラクター 唐木田 徹



C P L デビューを果たした若手主審 4 名

雨季は 1 0 月いっぱい、 1 1 月からは乾季、のはずなんですが中途半端に雨が降ります。こちらの人たちも、“こんなはずではないんだけどなあ” と、訝しげに空を見上げています。日本はすっかり冬模様ですか。

「A F F ・ S U Z U K I C U P 2 0 0 8」予選のために 2 か月中断していた C P L が再開され、残りの試合が一気に消化されました。

といっても、その再開前日に1チームが残りの試合をキャンセルしたために、組み合わせ日程が急遽変更にはなりましたが……。この国では実にいろいろなことが突然決まり、また変更になるのももう驚きません。



CPL表彰式

11月1日再開のMN.69からMN.86までの18試合は、私が審判割り当てを担当しました。以前から頼まれていたことでもあり、それまで約90試合のべ360人の審判の能力確認ができていましたので引き受けることにしました。彼ら（サッカー連盟および審判委員会）にもメリットはあります。いちばん大きな事は、チー

ムからのクレーム（あることないこと）に対して、『チャポン（日本人）が決めたから仕方がない』と逃げを打てる事でしょう（笑）。これは冗談ではなく、また悪い意味でもありません。どだい、割り当てがクメール人だからといって難くせを付けてくるのが間違っていますので、その悪癖を断ち切りたいということがあります。また、私が審判の活性化を図っていることに対する期待も、彼らにとって一つのメリットでしょう。



CPLでは、優勝賞金100万円を事務所で即日授与。リエルで渡しているのが40,000,000リエル

そこで、残り18試合分の割り当てを一気に作成し提出したところ……、一部差し替えの打診がきました。それは、残り試合の中で

C P L主審未経験の若手を起用した部分でした。委員会曰く、『彼らは経験がないので次のシーズンからにしてはどうだ？』。誰だって初めは未経験でしょう！ 次のシーズンに私はいない！！ それじゃいつまでたっても変わらない（進歩しない）ぞ！！ だったら割り当てやらない！！！！ と、久しぶりに短気な自分が出現し、卓袱台をひっくり返して（意味分かりますか？特に若い人）そっぽを向く姿勢（あくまで演技？ですから）をとったところ、『ただ心配しただけだ。それだけ言うなら改めて全面的に任せる』と、対応を変えてきました。これでこちらの勝ちです。最後に情け（助け舟）を出しておきました。『なにかあったら全部チャポンの責任にしておけばいいですよ』。

若手4人の主審と若手副審（将来性）、中堅副審（トレーニングに必ず参加している）の6人を登用しました。中堅副審はC P Lレベルには達しておらずダメ、若手副審は判定・スピード・体力とも良く国際候補になる人材でした。主審の4人はそれぞれいろいろありました。トスコインをキャッチできずに下に落としたり、試合中に足が攣ってスローインを止めて伸ばしたり、試合終了の笛と同時に負けたチームのG Kが猛然と駆け寄ってきて逃げ腰になったり……。

共通しているのは、判定はそこそこに来ているのですがマンマナー
ージメントが出来ていないところです。まさに「未経験」の「若手」
だからです。彼らには、この上ない財産となった試合ではなかった
でしょうか。特にG Kに追いかけられた審判は軍隊の護衛付きで家
まで帰れたのですから。



CPL表彰式で、審判団に授与された賞金500ドル

最終試合はベストレフェリーチームで、というリクエストがあり、
オールFIFA（ただしすべて副審）で割り当てました。年間ベ
スト主審が国際副審である、という一見??なところがこの国の現状
です。もちろん、この国際副審は主審の能力としても良いものがあ

ります。でも他の国際主審や主審担当はどうしたの？来年の課題です。

試合後、表彰式が行われました。優勝から5位まで賞金がでます。審判団も受け取りました。200万リエル！……200万を4000で割ってドルにすると……500ドル。このお金は後日、審判委員会役員と審判員全員との慰労会で使われました。

とにかくお疲れさま。



審判委員会主催の慰労会

※『ソク・サバーイ』とは、クメール語で「元気です」「元気ですか？」（正式にはソク・サバーイ・テー？）の意。